

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	3ピース小松		
○保護者評価実施期間	令和7年2月17日		～ 令和7年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24名	(回答者数) 20名
○従業者評価実施期間	令和7年2月17日		～ 令和7年2月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月28日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもに関わるスタッフが、それぞれの児童の発達や特性、家庭や学校を含めた環境因子に共通理解を持ち、こどもに寄り添った支援をおこなっていること。個別支援計画をスタッフみんなで検討し、十分に内容を理解したうえで支援に当たっていること。	毎日ミーティングの時間を確保し、児童の状況や起こった出来事について細かく共有を行っている。参加が難しい場合など、記録に残して全員が漏れずに情報を共有できるように努めている。また、担当者会議や面談等で児童発達管理責任者が保護者とお話した内容を、ミーティング、記録媒体で共有し、利用児童の現在の課題やご家族のニーズをスタッフが共有する機会を設けている。支援計画の立案に当たっては、担当者を中心に全スタッフが会議に参加して児童の現在の様子や課題について検討し、どのような活動内容を通して成長につながる支援ができるのか、具体的に実現可能な内容となるように話し合いを大切にしている。	個々の特性を考量しながらも、一緒に活動に取り組むことで得られる経験を促すため、集団活動の種類の幅を広げられるよう検討している段階である。
2	運動を中心とした集団活動がある点	専門的な知識をもったスタッフが、児童の特性に合わせた運動のメニューを検討し、集団で取り組んでいる。	運動に加え、遊びを通して感覚統合にアプローチできる内容について理解を深め、実際の活動に反映できればと考えている。
3	スタッフが個性を発揮できる良い関係性であること。	それぞれのスタッフが、得意分野、専門分野の知識や経験を十分に活かし活動の充実や職務の効率化を図れるように工夫している。	それぞれのスタッフが深めたい分野や活動について学んだり、研修を受けたりできるような時間を作っていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設的环境(広さ、個室が少ないこと)	集団活動において運動をする際や、複数の活動が同時に展開している場面において、走り回る、ボールを使用するなど広いスペースが必要となる遊びでは、広さが不十分に感じられるため、パーテーションで空間を区切る、時間で活動を区切る、スタッフの配置を工夫するなどして危険を回避できるように努めている。また、場面の切り替えが苦手な児童を周囲から離れた環境で見守る際に、場所で区切ることが難しい。	外での活動を増やすなど、屋外を有効活用する。パーテーションや段ボールなどで作ったスペースを活用する。
2	情報の提示方法	アンケートから、避難訓練の実施について行われているかわからないという回答が数件あった。日々の活動記録や紙面のお便り等で、避難訓練の様子や防災センターに行った様子などを保護者に向けて発信してきたが、全員に伝わっていない現状。	情報発信の方法について検討し、どのご家庭にも周知できるように再度検討していく。
3	家族支援の充実	保護者が交流できる場や、ペアレントトレーニングの機会を設けられていない。事業所の営業日が平日のみであることもあって、イベントや保護者会のような人が集まる会の日程調整が難しい。	スタッフがペアレントトレーニングの研修に参加するなど、家族支援の充実に向けて取り組み中である。保護者や利用児家族が交流できる場を持てるとう良い。